

磯松中学校だより No.12

令和2年3月18日
東広島市立磯松中学校

学校教育目標「確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成」

ホームページアドレス http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/isomatsu_chu/index.html

メールアドレス isomatsu-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

3月10日（火）第37回卒業証書授与式を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、卒業生、保護者、在校生代表、教職員の参加による式となりました。厳粛な雰囲気の中で卒業生113名が巣立っていきました。

令和元年度 磯松中学校 第37回卒業証書授与式 3/10



卒業証書授与



学校長式辞



在校生代表送辞



卒業生代表答辞



最後のHR



式辞 校長 竹原 弘長

私が皆さんに大切にしてほしいこと、それは「学ぶ」ということです。

本校の校訓は「思考・実践・敬愛」です。自他を敬い、大切にすることをもちよよく考え、よきことを行う。まさにこれが「学ぶ」ということです。

幕末の志士 坂本龍馬は、「この世に生を得るは事を為すにあり」という言葉を残しています。全ての人は事を成し遂げる使命を受けて生まれてきた。という意味です。では、自分が成し遂げなくてはならないものとはいったい何なのでしょう。自分しか分からない自分だけのこの答えを見つけるためにこれからがあります。人はこの答えを見つけるために学び、成すべき事に向かって学ぶのです。また、学びは学校だけではなく、皆さんが社会人となっても続きます。皆さんには、学び続ける人であってほしいと強く思います。

これから皆さんは、実社会により近いところでの人生が始まります。今日、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちをいつも以上に感じていると思います。これからもたくさんの人に感謝しながら、自分自身の可能性を信じ、多くのことを主体的に学びながら、一步一步進んで行ってほしいと思います。

送 辞 生徒会長 上田 葵依

磯松中学校を巣立っていかれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。今、卒業証書を授与された皆さんはこの三年間で成し遂げた充実感、そして未来への大きな希望で溢れていることと思います。

この学校を卒業されてからも、ここで学んだことや、経験したことを活かし、それぞれの夢や目標に向かって大きく羽ばたいていかれることを在校生一同、心より願っております。

在校生全員で先輩方を見送りたいのですが、突然のことでそれが叶わず、とても悲しく心残りです。だからこそ、これからも先輩方に教えていただいたことを、ずっと心に留め、大切にしていきます。今後、在校生一同、先輩方が活躍される姿をみることを楽しみにしています。いつでも、磯松中学校に話しにきてください。

最後に卒業生の皆さんの新たな一歩が光り輝き活躍されますことを心よりお祈りし、送辞といたします。

答 辞 永野 周

私たち卒業生 113 名は、この磯松中学校を卒業します。この度の非常事態の中、こうして卒業式の準備をしていただいたこと、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。先日、急遽、休校を告げられ、皆と過ごす日が更に短くなり、改めて中学校で過ごす一日一日が貴重なものであったことを思い知らされました。そして、これまで過ごしてきた思い出が、一気によみがえってきました。

在校生のみなさん、短い間でしたが、私たちを支えてくださり、本当にありがとうございました。皆さんと過ごした時間も、私たちの大切な思い出です。皆さんの中には、今後の生活の中で、乗り越えられない壁に直面することがあると思います。そんなときは、一人で悩まず、周りを見渡してみてください。一緒に頑張ってくれる仲間がいるはずですよ。四月には新一年生も入学してきます。温かく迎えて、皆さんの手で新しい磯松中学校を創ってください。

私たち卒業生は、これから自分で選択した進路を歩んでいきます。これからの世の中は、まだまだ私たちが予測のつかない出来事が起こるかもしれません。時に、戸惑い、立ち止まることもあるかもしれませんが、しかし、これまでの経験から、置かれた状況の中で出来ることを考え、再び前進し、自分の道を切り開いていきます。

最後になりましたが、学校生活を支えてくださったすべての方々に改めてお礼を申し上げますとともに、磯松中学校の益々の発展をお祈り致します。三年間、ありがとうございました。

各種大会・コンクールの結果

○令和元年度皆勤賞 (3/9)

神笠陽王、五反田亘成、村上祐輝、森川拓海、磯合理子、井上愛、岡田千宝、小野田武琉、宮本祐馬、小鴨由季、百田江梨花、三島愛梨、水野将人、小島悠生、森駿介、山中剛、山本創意、石井杏佳、永井愛梨、中野樺乃、福間千乃

○令和元年度中体連表彰 (2/19)

【個人】小島 悠生 (3年) 【団体】陸上部長距離

○令和元年度広島県児童生徒の体力・運動能力調査 (2/12)

【体力優秀賞】月村葵 (3年)、福間千乃 (3年)、岩本大河 (2年)、齋藤陽太 (2年)、小早川光希 (2年)、横川結月葉 (2年)、田原こはく (2年)

○第 68 回交通安全ポスター・作文コンクール (12/3)

【ポスター部門】銅賞 秋山拓 (1年)

4月の主な行事予定

4/8日(水)	2・3年生給食開始 就任式・始業式	16日(木)	1年生新入生テスト
9日(木)	朝練なし 第38回入学式 9:30	17日(金)	1年生交通安全教室
10日(金)	1年生給食開始	22日(水)	身体測定
14日(火)	PTA本部役員会(新旧) 19:00	25日(土)	春季大会
15日(水)	授業参観 13:00 学級懇談会・PTA学年・学級委員選出 14:00 学校説明会 14:25 PTA総会 15:00 PTA本部役員会・常任幹事会・学級委員会 16:00	26日(日)	春季大会
		27日(月)	集金日
		28日(火)	家庭確認
		29日(水)	昭和の日
		30日(木)	家庭確認

磯松中学校だより No.13

令和 2 年 3 月 18 日
東広島市立磯松中学校

学校教育目標 「確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成」

ホームページアドレス http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/isomatsu_chu/index.html

メールアドレス isomatsu-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

令和元年度学校評価(自己評価)の年間評価及び分析と今後の取組

令和元年度 学校評価表		東広島市立磯松中学校						
学校教育目標	確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成	経営理念	安心と活気のある学校づくりを推進し、地域に愛され信頼される学校を築く ○学力の向上を図る学校 ○規律と活気のある学校 ○組織的運営をする学校					
評価計画								
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	前期指標	後期指標	自己評価	分析と今後の取組	
				10月	3月	10月		3月
学力の向上を図る学校 基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ生徒を育成する。	(1)生徒が「分かる・できたい」実感できる授業づくりを推進する。	○確松授業スタイルの実践、わらわら学習課題が明確な授業。 ○学習規律(ベル係・私語)の徹底を図る。 ○聴く「書く」「話す」活動を取り入れた授業を展開する。 ○小中連携による教師力、生徒の学力の向上を図る。	①学習に係るアンケート項目の肯定的評価を90%以上にする。 ②確松授業が10の実践に向け、教職員の校内授業研究又は校外での研修参加率を100%にする。 ③「自分の考えをまとめる発表できる」生徒の割合を80%以上にする。 ④「他者(生徒間・教職員等)の話を聴く」「自分の考えを「自分の考えを振り返り」とまとめる発表する」ことができる生徒の割合を1年生70%、2年生75%、3年生80%以上にする。	①84.4% ②100%	①86.5% ②100%	2	2	①1年87.4%、2年81.2%、3年91.1% 3年生達成。1、2年生は達成していないが、前期(1年82.7%、2年79.1%、3年86.8%)に比べ伸びている。2年生は発表や賞問の項目が特に低いことから授業改善を引き続き図るとともに、授業規律を確立する。 ②模擬授業や研究授業を実施し、主体的な学びを実践している。また、校外で研修した内容を校内研修会で共有している。
	(2)家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ意欲・態度を育てる。	○適度な宿題及び自学自習ノートの課題の提出・点検を実施する。 ○読書活動(朝読書も含む)を推進する。	①期限内に提出物を出す生徒の割合を80%以上にする。 ②月1冊以上の読書をする。	③75.3% ④90.2%	③76.6% ④91.7%	3	3	③1年78.6%、2年65.2%、3年86.2% 3年生達成。前期から伸びているが、2年生の達成率がまだ低い。授業やテストにおいて場を設定する。 ④1年91.3%、2年89.6%、3年94.5% 各学年とも高い達成率である。関心はどうか意識をさせ、引き続き、「人のことを大切に聞く姿勢を身に付けさせる。
規律と活気のある学校 豊かな心と健やかな体を育て、活力ある生徒を育て、不登校の未然防止に努める。	(1)豊かな人間性と社会性を育てる。	○JASMIN(東広島スタンダード)を徹底させる。 ○部活動・体育大会・文化祭等の取組を充実させる。	⑦生徒の「JASMIN」についての取組を肯定的に評価する教職員の割合を80%以上にする。 ⑧JASMIN(8項目)の達成率の平均を87%以上にする。(時間90%、挨拶90%、返事、言葉遣い90%、掃除、整理整頓80%、身だしなみ80%、履物80%、提出物80%) ⑨主体的・創造的な活動(部活動・体育大会・文化祭など)の取組による達成率を80%以上にする。	⑦95.8% ⑧92.2% ⑨83.0%	⑦100% ⑧92.8% ⑨91.5%	3	3	⑦95.8%→100% 目標の数値を上回った。毎月生徒指導重点目標を設定し意識して指導した。次は生徒に評価を返して頂くことを意識したい。 ⑧92.2%→92.8% 目標の数値を上回り全体的に高い達成率である。黙読掃除の徹底と提出物が次の課題である。 ⑨93.0%→91.5% 後期は3年生が部活動を引退しているため、数値が低くなっている。「全体的に高い達成率である。
	(2)健康の増進と(ま)い体育てる。	○健康教育・食教育の推進を図る。 ○新体力テストの結果を踏まえて、弱点克服のための補強運動を実施する。	⑩「給食を残さない」生徒の割合を90%以上にする。 ⑪男女共に「長座体前屈」について県平均値を上回るようにする。	⑩80.4% ⑪83.3%	⑩93.7% ⑪93.3%	2	2	⑩90.4%→93.7% 目標値を上回っている。 ⑪93.3%(年間) 全体的に数値の向上が見られない。「長座体前屈」の数値が日常生活にどのように生かされるか生徒へ指導するとともに、体育の授業、各部活動で意識的にストレッチを行う必要がある。
	(3)不登校の未然防止。解決に向けた取組を充実させる。	○生徒指導部(不登校対策委員会)を定例開催し、取組の方向性を出す。 ○スクールカウンセラーやのサポートを活用する。	⑫不登校生徒の割合を全国平均以下にする。 ⑬生徒指導実践指定校の取組による不登校生徒への家庭訪問実施率を100%実施する。	⑫0.5% ⑬100%	⑫0.8% ⑬100%	3	3	⑫0.5%→0.8% 1年生1人、2年生2人、3年生0人で0.8%である。平成30年度の全国平均3.8%を下回った。 ⑬100% 引き続き家庭訪問を実施するとともに生徒実態に応じた対応を行う。
組織的運営をする学校 機動的な学校運営体制を確立し、保護者・地域に信頼される学校をつくる。	(1)生徒指導体制を確立する。	○報告・連絡・相談を徹底させ、組織的・機動的な生徒指導を行う。 ○教育相談体制を確立し、生徒理解を深める。	⑫「悩みを相談できる先生がいる」生徒の割合を75%以上にする。 ⑬SCによる新入生面談を100%実施する。 ⑭「学級生活不満足群」の生徒の割合を10%以下にする。 ⑮Q-U等を活用した教育相談の実施率を100%にする。	⑫79.8% ⑬100% ⑭14.3% ⑮100%	⑫82.8% ⑬100% ⑭13.3% ⑮100%	3	3	⑫79.8%→82.8% 目標の数値を上回っている。引き続き相談しやすい信頼関係づくりを努める。 ⑬100%(年間) 新入生面談を100%行ったことが、その後の学校生活で悩みを抱えた時にSCとの面談へ繋げやすくなっていくことから来年度も引き続き実施したい。 ⑭14.3%→13.3% 目標の数値は下回っているが、全国平均値28%は大きく上回っている。個別の面談など対応を引き続き行うことにより学級満足度を向上させたい。 ⑮100%(年間) 夏季休業前の懇談でQ-U実施者には個人票を配布し全員と個別の面談を行った。
	(2)小中連携教育を推進し、子供の資質・能力を高める。	○育成する資質・能力の系統表を作成し、三校で子供の資質・能力を高める。 ○学校や地域に貢献する。 ○授業参観や学校だより、ホームページを充実させる。	⑯校内緑化活動、美化活動、地域でのボランティア活動に積極的に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。 ⑰「磯松中学校で学ばせて良かったと思う」保護者の割合を90%以上に上げる。 ⑱「行ってみたい学校(生徒)、行かせたい学校(保護者)、やりがいのある学校(教職員)の割合85%以上にする。	⑯88.8% ⑰96.4% ⑱92.1%	⑯88.1% ⑰95.2% ⑱94.5%	3	3	⑯1年57.3%、2年62.6%、3年86.2% 部活動の活動時間が減ってきているため、部活ボランティアの時間がとりにくくなってきている。 ⑰1年88.6%、2年100%、3年98.1% 高い達成率である。1年生は前回(96.3%)より後退している。 ⑱生徒88.3%、保護者98.2%、教職員100% 概ね達成できている。取組を継続し、満足度を上げる。
	(3)社会に開かれた魅力ある学校づくり(教育課程)を推進する。	○授業参観や学校だより、ホームページを充実させる。 ○資質・能力を育成するカリキュラムマネジメントを推進する。	⑲「子どもと向き合う時間が確保されている」と実感できる教職員85%以上。	⑲94.2%	⑲63.2%	2	2	⑲改善が見られるが引き続き進捗に業務の見直しを持たせ、毎日の遠校時刻を確保する等の取組をしていく。 ⑲改善が見られる。「子どもと向き合う時間」を確保するために、行事や業務内容の見直しを実施した。
働き方改革の推進 教職員の時間外勤務時間を縮減させるとともに、子供と向き合う時間が確保されていると実感できる教職員を増やす。	(1)部活動時間を縮減する。	○学校の部活動方針に基づいた部活動の実施。	⑲時間外勤務時間が毎月75時間を超えない教職員の割合100%。	⑲66.7% ⑲78.9%	⑲78.9%	2	2	⑲前回よりは改善できている。
	(2)業務に計画的に取り組む早期退職に努める。	○早期・定時退職日を設定する中で、計画的に業務に取り組む。	⑲早期・定時退職日が守られた教職員の割合85%以上。 ⑲「子供と向き合う時間が確保されている」と実感できる教職員85%以上。	⑲41.7% ⑲64.2%	⑲55.6% ⑲63.2%	2	2	⑲改善が見られるが引き続き進捗に業務の見直しを持たせ、毎日の遠校時刻を確保する等の取組をしていく。 ⑲改善が見られる。「子どもと向き合う時間」を確保するために、行事や業務内容の見直しを実施した。

【目標達成率】X = 達成値/目標値 × 100
割合の評価 4(目標達成): X ≥ 100 3(ほぼ達成): 80 ≤ X < 100 2(もう少し): 60 ≤ X < 80 1(できていない): X < 60

【評価】
4→目標を上回って達成 3→目標とほぼ達成
2→目標を下回った 1→目標を大きく下回った